

きれい 甲斐

No.72 MARCH 2016

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。

環境保全に関する活動を積極的にやっている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

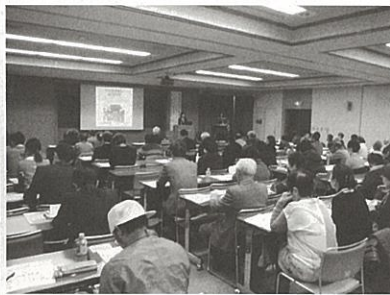
事務局 ●〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県森林環境総務課内
TEL.055-223-1657 FAX.055-223-1636 ✉sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp
ホームページ [\[パートナーシップやまなし 検索\]](#)



古紙配合率100%再生紙を使用しています

発行責任者 ●企画委員長 権守昇

やまなし環境活動推進ネットワーク フォーラムを開催しました



環境パートナーシップやまなしは、1月30日（土）に「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を公益財団法人やまなし環境財団との共催で開催しました。

当日は約100名の方々に参加していただき、午後1時から4時まで環境保全に向けた取り組みについて活発な情報交換がなされました。

前半では、環境保全に向けた活動を実践している4団体から日頃の活動内容について発表していただきました。

《活動報告》

特定非営利活動法人みどりの学校 ～自然エネルギーの普及啓発活動～

最初に「特定非営利活動法人みどりの学校」からは、「市民が関わり・創る地産地消の社会」と題して、活動の柱である市民立共同発電所の設置、自然エネルギー普及啓発として環境学習会の開催、自然エネルギーの調査研究など、次世代が安心して暮らせる社会をつくるための活動が紹介されました。また会場には、ソーラークーラーが展示され、参加者からは身近に見て触れることができたことで、より理解が深まったという意見をいただきました。



「みずうみ」 ～たのしくエコ活動・おばあちゃんの知恵袋開催～

「みずうみ」からは、「おばあちゃんの知恵袋で楽しくエコ活動」と題して、よみがえる着物ファッションショー、廃油から石鹸づくり、レジ袋削減運動のPR、環境講演会、「おばあちゃんの知恵袋」開催等の事業が紹介されました。活動の拠点である富士河口湖町は多くの観光客が訪れることから、今後は「もったいない心」を世界へ向けて発信し、ごみ減量の取組やエコドライブ宣言者の拡大(3,776人)等に取り組んでいきたいとのことでした。



やまなしエコネットワーク ～やまなしエコネットワークのこれまでとこれから～

「やまなしエコネットワーク」からは、「やまなしエコネットワークのこれまでとこれから」と題して、市民環境オンブズマン活動、環境セミナーの開催、他の組織との連携、調査研究活動等の活動が紹介されました。

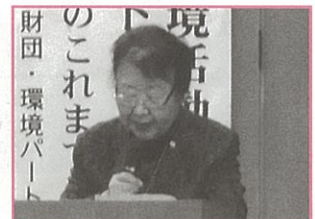
中でも、市町村における環境基本計画や地球温暖化計画の策定状況や温暖化対策協議会の設置状況の説明は、多くの方々が感心を寄せられました。

今後も環境に関する様々な課題を、提示していきたいとのことでした。



あしたの山梨を創る生活運動協会 ～食品ロスの発生抑制と減量化推進活動について～

最後に「あしたの山梨を創る生活運動協会」からは、「食品ロスの発生抑制と減量化推進活動について」と題して、家庭から排出されるゴミ量の多さに気付き、実態把握することから始めた『食品ロス』への取り組みについて説明がありました。今後も生ごみの減量化や二酸化炭素の排出量の削減に向け、引き続き市町村や関係団体等との連携を深め、効果的に進めていく方策についての検討を進めていきたいとのことでした。



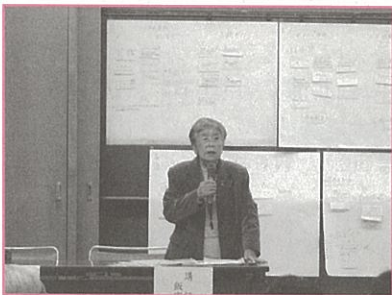


ワークショップでの意見交換

後半では、8つのグループに分かれ、「エコライフ県民運動のこれまでとこれから」をテーマに、これまでの活動の中での課題と新たな展開へ向けての意見やアイデアについての活発な話し合いが行われました。その後、各グループの代表者がグループ内での意見交換やまとめた内容を発表し、「県民の浸透度が低い」「市町村での取り組みに差がある」「若い世代への周知及び教育が必要」「各団体や民間企業との連携が必要」「結果の見える化をする」等の意見が出されました。



ワークショップのまとめとして、進行役であるやまなし環境財団の鳥屋尾運営委員が、「本日の話し合いのキーワードとして出された『見える化』『ネットワーク・連携』『主体性』『楽しみのある』という言葉は、相互に影響し密接に繋がっている。これからの時代を担っていくのは我々一人一人であるので、新たなエコライフ県民運動をみんなで盛り上げていくことが大切」とのまとめがありました。



ネットワークフォーラムの最後に、公益財団法人やまなし環境財団の副理事長であり環境パートナーシップやまなしの企画委員である飯窪さかえ氏から、「どのような活動をして、一番根っこにあるのは家庭・地域、自治会、町内会。家族ぐるみで、若い人も年寄りも、一体となって話ができるコミュニケーションの場である家庭、地域、自治会、町内会で人間関係の絆が培われるようなコミュニケーションがとられているか。その中の素材に環境問題がきちんとみなさんに伝わっているのか。県民運動については取り組みに差があり、エコライフ県民運動を知らない人もいます。皆さん一人一人が主役であるので、それをどうまとめていくかが大事。今後の課題である。新しいしくみをつくり、課題を共有しながら、山梨県の環境政策を進めていくエネルギーになっていただきたい」との講評をいただき、閉会となりました。

ネットワークフォーラムに参加していただいた方にアンケートを実施した結果、回答をしていただいた全員の方から役に立ったとの回答をいただきました。

若宮賞表彰式・感謝状贈呈式を行いました

やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムの第1部では、公益財団法人やまなし環境財団が、優れた環境保全活動を行っている個人・団体を表彰し、また同財団に寄附をされた団体の方々へ感謝状を贈呈しました。

若宮賞被表彰者

甲府市女性市民会議OG・相川の会
やまなし森の紙推進協議会

感謝状被贈呈者

イオンリテール株式会社イオン甲府昭和店
株式会社ダイエー



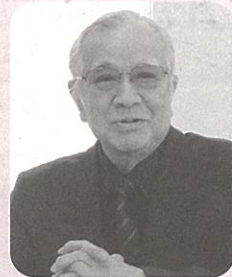
[ホームページ](#) [やまなし環境財団](#)

[検索](#)

コラム

川たちの旅を夢見て

阿刀田 高



川のある自然が大好きだ。昨今はコンクリートで保護された川が多いけれど、本心を言えば、あれではなく、岸も川底も自然のままの川、そこにきれいな水が流れているのがすばらしい。魚影があればさらにうれしい。

子どものころには、そんな川が到るところにあって、それぞれがいろいろな遊びを提供してくれた。とりわけ魚を捜すのが楽しかった。

あのころ読んだ本に近所の川の岸をどんどん下って川口にまで到る少年の冒険談があった。多分フィクションだったろう。現実には川岸をたどって海にまで行くのはむずかしい。

東京には神田川が広く分流をひろげていて、やがては隅田川に注ぐ。自動車で筋道だけを追えば、なんとかたどれるけれど、これではそうおもしろくもあるまい。隅田川への注ぎ口には有名な料理店があって、その二階から酒を飲み飲み神田川の旅路に思いを馳せたことがあった。山梨県の川の旅はみんな山を越え谷を渡り相当の長路だろう。

都市ではコンクリートの川が多くなってしまったけれど、夢の中ではやっぱり昔なつかしい川が映って心を慰めてくれる。



Profile

プロフィール

作家、小説家。

昭和10年東京生まれ。

早稲田大学第一文学部フランス文学科卒業後、国立国会図書館で司書として11年間勤務する。

図書館勤務中から執筆活動を続け、昭和53年『冷蔵庫より愛をこめて』でデビュー。

昭和54年『来訪者』で第32回日本推理作家協会賞、同年短編集『ナポレオン狂』で第81回直木賞受賞。平成7年『新トロイア物語』で第29回吉川英治文学賞受賞。

その他、『短編小説のレシピ』『旧約聖書を知っていますか』など著書多数。

最近の著作に『アンブラッセ』（文藝春秋 2015年1月）、『地下水路の夜』（新潮社 2015年4月）がある。

国語政策への貢献に対して、平成15年紫綬褒章、平成21年旭日中綬章受章。

平成19年から平成23年まで日本ペンクラブ会長を務める。

平成24年4月に山梨県立図書館館長就任。

平成26年4月に新田次郎記念会理事長就任。



お知らせ

「きれい甲斐」は、送付方法を①郵送、②メール配信、③県ホームページからダウンロードの3種類から選択できます。現在の送付方法から変更を希望される方は、事務局までご連絡ください。

環境パートナーシップやまなし事務局（県森林環境総務課内）

TEL : 055-223-1657 / FAX : 055-223-1636 E-mail: sinkan-som@pref.yamanashi.lg.jp

富士山、ワイン、ブドウと言ったら「山梨」と言われるほどに「ワイン」は山梨の顔になっています。それ故、ワイン業界は原料を作るブドウ農家と連携して、山梨産業の基軸になるべく踏ん張っているところです。山梨県ワイン酒造組合はその中軸となって各位の期待に応えようと活動していますので、その活動状況をご紹介します。

ワイン業界は組合員の発展のため、山梨県ワイン酒造組合（以下、組合）と山梨県ワイン酒造協同組合（以下、協組）を設置し、組合は酒税法に基づく各種協力、ワイン醸造技術の向上と指導および啓発を行い、協組はワインの販売、販路拡大を軸に動き、両組織が両輪となって活動しています。そこで活動状況を昨年の事例で上げますと以下のようです。

県産ワインは平成25年7月、国税庁長官産地指定の「地理的表示」が、ワインで初めて「山梨」が指定されました。これに伴い一定の基準をクリアしたワインに地理的表示「山梨」あるいはGI Yamanashiを表記し安全・安心のワインを出荷します。そのため、組合はワインの表示、官能審査を毎月1回行い、これには東京国税局、山梨県も協力します。また、平成27年7月24日（木）・25日（金）に開催された「日本ワインコンクール」へ参加し、県産の甲州ワイン5点が金賞を受賞しました。次に11月3日（祝日）に日比谷公園（東京）で、11月14日（土）・15日（日）に小瀬スポーツ公園（甲府）で2015年度「第28回山梨ヌーボーまつり」（協組と共催）を実施しました。入場者は日比谷が4,360名で、小瀬が2,437名と大変な賑わいでした。さらに「小規模ワイナリー重点支援」及び「若手醸造家・農家研究会」への支援、指導を行い、ワイナリーを技術指導し、また醸造家とブドウ栽培家とが技術共有してワイン品質の向上に繋げています。農家とは「全量契約栽培」を推進し、これはメーカーと農家とが自主契約を結んで取引を安定的化するもので農協や生産組合も協力します。

一方、協組は12月5日（土）・6日（日）に「第2回山梨ワイナリーズフェア」を六本木（東京）で実施し、これには19社が出展して試飲と即売会を行いました。フェアには地理的表示「山梨」の審査を通ったワインを出品し、料飲店等との商談また消費者を対象とした試飲会で満員の入りとなり大変好評でした。また7年目に入った「甲州ワイン世界輸出プロジェクト」を実施し、平成28年2月上旬にロンドン、ブリュッセルでの試飲会、また3月にドイツ・プロワインに出品しています。この事業はロンドンを基軸にEU向け「甲州ワイン」のブランディングですが、国内やアジア圏にも知名度が波及し効果を生んでいます。

これらの事業は山梨県の協力もあって推進しています。今、酒類は消費者人口が限界に来ているものか正念場です。ワインは主役たる食事が楽しく進むよう添えてこそ真価があり、そのため、山梨の各ワイナリーはワイン品質の維持、向上に邁進しています。



第28回「山梨ヌーボーまつり」



第2回「山梨ワイナリーズフェア」

ホームページ [山梨県ワイン酒造組合](#)

検索

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】

①A5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】

○主催団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等をお教えてください。